

全科実例による社会保険

歯科診療

2016

平成

28年 4月版

歯科保険研究会 編



購入者限定! 3大**無料**特典付き

①「歯科診療 2016 電子版」

②「歯科診療かな漢字変換辞書 2016」

③「更新情報メールサービス」

医歯薬出版株式会社

団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向け、地域包括ケア体制構築への取組みを一層明確にした平成 28 年度診療報酬改定が行われました。その特徴は、地域医療構想と診療報酬改定を深くリンクさせると同時に、介護・医療との同時改定となる平成 30 年度改定を想定した改定となりました。

改定のキーワードは、機能分化・強化と連携、在宅歯科医療、かかりつけ歯科医の機能評価です。一方、ICT 化の推進を誘導しながらアウトカム評価を入れた加算項目が目立ちます。

歯科の個別項目から見ると、医科・歯科の連携推進のための、①周術期口腔機能管理、②かかりつけ歯科医機能評価による在宅訪問歯科診療の評価があげられます。

今回の改定で注目していただきたいのは、かかりつけ歯科医機能を評価するなかで、歯科診療所が機能分化する方向が示されたことです。かかりつけ歯科医機能強化型診療所や在宅療養支援歯科診療所等は、さまざまな加算や新設項目がついた改定となっています。

従来型の歯科診療所であり続ける以上、今回の改定での恩恵はほとんど期待できません。

さて、本書の編集の特徴は、まずこれらの社会保障制度改革の内容を踏まえ、平成 28 年度診療報酬改定の概要を理解していただくために改定の要点をビジュアルにまとめました。読者の方が地域医療に貢献する上で、自院はどのような機能を強化していくかを考えていただくことを編集方針の根底に置いています。また、平成 27 年度から義務化された電子レセプト請求による画面審査が、どのような変化をもたらしているのかを理解していただく症例解説としています。

したがって本書の構成は、第 1 部として平成 28 年度改定の概要と新症例の解説、第 2 部には従来の解説に加え、注意すべきチェックポイントを、第 3 部は、画面審査に対応した算定日情報や縦覧情報、治療回数や月をまたぐ際の要点など、誤りの多いケースについて解説しています。

画面審査では個々の歯科診療所がどのような治療内容を行っているのかを統計的に分析可能です。さらにその診療所の質的評価もある程度把握することが可能になっています。

医療の ICT 化により診療情報は、保健医療政策のデータベースとして今後さらに活用されるでしょう。

歯科診療所は、自院の増点対策だけに目を向けていては、地域構想が推進される中では将来の経営基盤を危うくさせます。

今回の赤本の構成は、読者の理解を助けるビジュアル化とチェック解説をさらにわかりやすくする編集に心掛けました。

付録の電子版、歯科診療かな漢字変換辞書を活用していただき、日常診療に役立てていただければ編者一同の喜びとするところです。

編者一同

本書の構成と特徴

第 1 部

平成 28 年度 診療報酬改定の解説

医療制度変遷のなかで歯科医療はどこに向かうのか。
第 1 部では総論としてこの問題を捉えたうえで、
本年度の診療報酬改定の概要、おもな変更点を概説します。

第 2 部

症例解説

多数の症例カルテを掲げ、診療報酬の細部を解説しています。
また、算定日情報、縦覧点検で問題になるような項目については、
当該症例のなかで項目を設け、
注意すべきポイントを提示しています。

第 3 部

算定日情報・縦覧点検で 注意すべき事項

電子レセプト請求が義務化されているいま、
電子レセプト請求ではどのようなチェックがされるのか、
改めて意識することが重要になってきます。
ここでは、算定日情報や縦覧点検で
特に注意が必要な項目について、
押さえておきたい電子請求でのチェックポイントを詳説します。

歯科保健医療サービスの展開の動き

平成28年度歯科診療報酬改定の概要を踏まえ

1. はじめに


団塊の世代が2025年に後期高齢者の仲間入りをする、いわゆる「医療の2025年問題」が強調されていますが、その次のトレンドとして、少子高齢化の後には、人口減少が進むことから、医療保険制度を含む社会保障制度を維持していくうえでの対応が求められるようになってきております。将来的に、わが国は、人口減少と超高齢化への準備を同時に考えていかなければならないといえます。

このため、社会保障や経済の問題について、将来展望と構想が議論されるようになってきています。


ところで、これから人口が減少していく社会に向けて、少子高齢化等への対応を図るため、2015年10月に、一億総活躍国民会議が内閣府に設置されました。一億総活躍社会とは、表1に示すとおり、人口減少に歯止めをかけ、50年後に1億人の人口を維持（現在の推計では、約8,700万人に減少）することで、社会保障の面では、「安心につながる社会保障」をはじめ、いわゆる「新・三本の矢」の実現を目的とするプランの策定を行うことが主眼となっています。

2015年11月下旬にとりまとめられた考え方の整理では、生涯現役社会に向けて、安心につながる社会保障として、予防に重点化した医療制度改革などにより、健康寿命の

表 1. 一億総活躍社会とは



少子高齢化という日本の構造的な問題について、正面から取り組むことで歯止めをかけ、50年後も人口1億人を維持



一人ひとりの日本人、誰もが、家庭で、職場で、地域で、生きがいを持って、充実した生活を送ることができること

平成28年度診療報酬改定の概要（歯科）

厚労省 2016.3.4 資料より抜粋

かかりつけ歯科医機能の評価		<ul style="list-style-type: none"> う蝕，歯周病，口腔機能低下の重症化予防に対する評価 	▶▶▶▶▶
自立度の低下	在宅歯科医療の推進等	<ul style="list-style-type: none"> 摂食機能障害を有する患者に対する口腔機能管理の包括的な評価 歯科訪問診療の適正化 実態に即した歯科訪問診療料の評価 在宅歯科医療専門の医療機関に関する評価 ほか 	▶▶▶▶▶
全身的な疾患	チーム医療，医科歯科連携の推進等	<ul style="list-style-type: none"> 周術期口腔機能管理を実施した患者に対する手術料の加算の充実等，周術期口腔機能管理の充実 歯科医師と連携した栄養サポートチームに対する評価，その結果に基づいて歯科訪問診療を実施した場合の評価 ほか 	▶▶▶▶▶
生活の質に配慮した歯科医療の推進	加齢による口腔内の変化	<ul style="list-style-type: none"> 舌接触補助床を装着した患者に対する舌圧検査の導入 口唇口蓋裂患者に対するホッツ床等の口腔内装置の装着を行った患者に対する調整及び指導等の評価 ほか 	▶▶▶▶▶
	歯の喪失リスク増加	<ul style="list-style-type: none"> エナメル質初期う蝕等のフッ化物歯面塗布処置の評価の見直し 歯周病安定期治療の評価体系等の見直し ほか 	▶▶▶▶▶
歯科医療技術の推進等	新規医療技術の保険導入	<ul style="list-style-type: none"> レジン前装金属冠の適応範囲の拡大 歯冠補綴時色調採得検査の導入 ファイバーポストに伴う技術の評価 ほか 	▶▶▶▶▶
	先進医療の保険導入等	<ul style="list-style-type: none"> 有床義歯咀嚼機能検査の新設 	▶▶▶▶▶
特定保険医療材料の見直し		<ul style="list-style-type: none"> 歯科用アマルガムの廃止 ほか 	▶▶▶▶▶

平成 28 年度診療報酬改定による 歯科医療機関の機能分化と おもな改定項目の解説

1 かかりつけ歯科医機能の評価

1-1 かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所

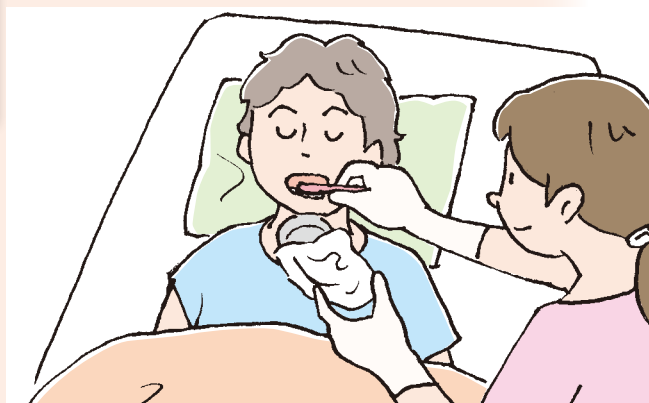
地域完結型医療推進のため、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所が新設されました。地域包括ケア（地域完結型医療）における歯科医療提供体制の構築へ。



①う蝕・歯周病の
重症化予防に対する評価

(新設) エナメル質初期う蝕管理加算
(新設) 歯周病安定期治療Ⅱ

②口腔機能低下の重症化予
防・歯科疾患への包括的で継
続的な管理を評価



(新設) 在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の加算

